

ホーム名:グループホーム高石				
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に掲げている「生きがいのある暮らしのお手伝い」の実現に向け、利用者様の想いをくみ取り、毎日がその人らしく生活できる環境づくりに取り組んでいる。	理念は事業所入り口の近くの壁に高く掲げられており、出勤時の意識高揚と共有化を図られている。その主旨は、利用者に生き甲斐を感じてもらうような支援をする事を目指させている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の盆踊りやお祭り、フェスティバル等の地域行事には、利用者様と一緒に参加してきたが、現在はコロナ禍の為地域行事への参加は控えている。	自治会にも参加し地元との親密な関係継続に努めていたが、深刻なコロナ感染拡大の懸念が広がり始めた頃から、交流中断の決定をせざるを得ない状況に追い込まれている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	商工フェスティバルへの参加や、SOSネットワーク事業連絡会への参加、地域のスーパー等で行う介護相談、小・中学校での福祉教育への参加を行ってきたが、コロナ禍で一部開催出来ていないものもある。	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回奇数月に行ってきたが、コロナ禍で面会禁止となつてからは、書面の交付だけに留まっている。	内外者の集結する従来の会議という方法を避け、文書による報告と、質疑については、全て通信方法で行う事を採用された。市からもこの期間においてはこれを運営推進会議としての機能を果たしているとしての承諾も得られている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	月に一度利用者様の状況を報告。入居相談・困難事例・空床状況等の相談を行っている。地域密着サービス会議にも参加し、情報共有を行い協力体制を強化してきたが、コロナ禍で会議が開催されていない。	従来からの事業所の方針として、月々の利用者の生活状況や支援状況を市に報告する事で、内状を把握してもい信頼関係の緊密化を図っている。市の主催する福祉関係者どうしの地域密着サービス会議にも積極的に参加されている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	定期的な自社研修を実施しており、正しく理解できるよう努めている。また、身体拘束を回避できるよう、原因究明に勤め、不穏なく過ごせる環境作りに留意している。コロナが落ち着けば、外部研修も積極的に参加していきたい。	身体拘束のないケアの徹底化を図るために法人主導による研修を年2回実施している。理解を深める為に研修後コメントを書いてもらったりする。支援の実践については勉強会も行い拘束のないケアを目指している。ホームは5階にある為に昇降はエレベーターを使用しているが職員の見守りによって利用者の安全は確保されている。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な自社研修を行い、虐待防止について職員間で理解を深めている。また、職員のストレスから虐待に繋がるケースもある為、職員の体調面にも気を配り、ストレスフリーな環境作りに努めている。	/

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>コロナ禍の為、外部研修は控えているが、社内研修の中で、理解を深めるようにしている。成年後見人制度が必要と思われる方には、必要性を話し合い実際に制度利用に繋げている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書にて、ホームについて十分に説明を行った上で、契約を凍結している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議が中止となっている為、家族様等の意見や要望を伺う機会が減ってきてしまった。毎月の報告書にて、利用者様の意見をお伝えするようにしており、家族様等からは電話やメール等で意見を頂ける機会を持ち、運営に反映させている。</p>	<p>感染防止対策の為、現時点では内部報告書を読んでもらった上で意見や要望を聞き入れるようにされている。家族からの反応は多くは得られていないが受けた要件についてはよく話し合い反映できるように努めている。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月の自社研修時にケア会議を行い、個々の意見を聞く機会を持っている。意見や提案については、その際に職員間で検討し、運営に反映するようにしている。</p>	<p>職員の意見や提案は毎月の職員会議で発議できる機会があり議題として検討される。議題は身近な事も多く最近では利用者の頻尿問題について話し合われたりした。事業所では常に実践可能な形で反映するように努めている。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々に責任とやりがいを持ってもらえるよう、利用者担当を決めたり、その他の業務も役割を決めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自社研修やケア会議等で学んだことは、情報共有し職員皆で取り組んでいる。困難な事例に遭遇した時も、職員全員が同じ水準での力量を発する事ができるよう、互いに声を掛け合いながら、チームケアの推進に努めており、よいトレーニングの機会となっている。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>SOS会議や地域密着会議、福祉教育や災害ボランティアへの参加など、同業者との交流を推進してきたが、コロナ禍で中止となっている。コロナが落ち着けば、以前のように積極的に交流を深めていきたい。</p>	

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様毎に担当職員を決めている。サービスを開始された利用者様が、少しでも担当者との信頼関係が築きやすいよう、入所時の部屋の家具の配置や衣類の整理等も、一緒に行えるような勤務体制を心掛けている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時に家族様の意見や要望をしっかりと聞き取り、解決策を一緒に考えていく体制を常時持つよう心掛けている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の既往歴と生活歴を踏まえ、本人様と家族とが必要とするサービスの見極めができるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が少しのサポートを行うことで、利用者様同士が支え合いながら共に暮らしていけるよう、自立支援を踏まえながらのケアの徹底に努めている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の担当職員と家族様が、電話やメールで常に情報共有が取れるようにしている。以前は個々のケアチェック表を面会時に見て頂いたり、家族を含めた外出や、家族の行事ごとにも一緒に出かけサポートしていたが、コロナ禍で現在は出来ていない。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から通っている美容室や病院に行き、馴染みのある方々との交流を継続していたが、現在はコロナ禍で出来ていない。盆踊りやお祭り等、コロナが落ち着けばまた参加していきたいと考えている。	入所以前からの関係継続については事業所の基本的な方針でもあり常に積極的に支援し実施されている。お墓参りを希望されている方には職員が付き添って行かれたり、決まった美容室を望まれる方にも職員が一緒に付いて行かれている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を通じ、利用者間のコミュニケーションを図っている。同じ生活の中で利用者様同士が支え合えるよう、支援に務めている。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してしまうと連絡を取る機会が減り、疎遠になってしまっている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングや日々の会話の中で、一人一人の想いや希望、隠れたニーズを読み取り、実践していきけるように職員間で話し合いを行っている。	思いや意向を正しく理解する為に、職員はひと月ごとに違う利用者のモニタリングを実施している。それらの情報を共有し話し合う事によって、利用者を満足させる支援を可能させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	既往歴や生活歴等を家族との交流の中で把握したり、本人とのコミュニケーションの中で、これまでの生活環境や馴染みの物を読み取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを崩さないよう努めている。その日の表情、行動など色々な状況にも気を配り、医療との連携も図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のモニタリングは、職員が順番に行っており、全職員の意見を反映する様にしている。その他、医療、看護師、歯科の方々との連携を図り、介護計画書を作成している。	作成責任者は経験豊富な実績をもたれている。関係者全員の意見の聴き、一つ一つの支援の仕方について具体的に話し合えれ介護計画の作成に当たっている。家族の同意を得られた上で6ヶ月間の計画期間として実施されているが、必要な見直しは随時とされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表記入の際は、「5W1H」を明確にした文章を記入するよう心掛け実施している。特別なことがあれば特記事項に記録し、申し送りノートにも転記。全職員が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族のニーズをしっかりと捉え、個別での対応を臨機応変に行っている。また、隠れたニーズに関しても、上手く導き出せるよう本人様や家族とのコミュニケーションを密にし、柔軟なケアの対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店に買い物に出掛けたり、飲食店やコミュニティカフェ等に出掛けたりして、地域と馴染める機会を作ってきたが、現在はコロナの影響で行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り入所される前より通院されていた病院への受診の付き添いや、馴染みの医師の往診等を継続している。適切な医療が受けられるよう、主治医との情報共有を細かく行っている。	入所以前からのかかりつけ医の診察を受けている利用者は3名いる。内一人は往診してもらっている。二人は職員が付き添いで受診しに行っている。医療法人が運営しているGHではあるが、利用者の要望については極めて協力的であるといえる。	

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>体調に変化があった場合は、直ぐに看護師に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。また、ケアチェック表を共有し、全職員との情報共有も行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は介護サマリーやケアプランを提示し、日々の状態の情報提供を行っている。退院時には、カンファレンスを開催していただき、入院先の医師や看護師、ケースワーカーからの情報を受け取っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化の場合は、必要に応じ専門医の往診を実施し、必要な福祉用具等も取り入れ、どのような方向性でケアを継続していくかを、家族様、主治医、看護師、職員を交えて、その都度話し合いを行っている。</p>	<p>重度化に向かい始めた頃から週末期への介助支援については関係者による話し合いが実施される。利用者の状況の変化に即して話し合いは適時行われている。事業所の方針としては看取りは受け入れられており家族もまた、看取りまでを要望されている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>社内研修の中で、急変時の対応を学んでいる。コロナ禍で救命救急の研修が開催されていないが、以前に研修を受けている職員もおり、AEDに使い方も周知している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回法人全体で、消防訓練を実施している。その際は利用者様にも参加して頂き、利用者様がどのような動きをされるかを確認し、避難方法や声掛け等の見直しを都度行っている。</p>	<p>避難訓練は年2回実施され内1回は消防署の立ち合いがある。職員が利用者を非常階段の出口まで誘導し消防署の指示に従う。廊下には強力な消火栓が設置されている。近所からの協力は校区長を通じて依頼してもらっている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々に対する声掛けやケアの方法を工夫している。生活歴をしっかりと踏まえ、本人様の尊厳をしっかり守るよう心掛けている。</p>	<p>人格を守る為の勉強会が行われている。利用者の名称はその方の気に入られた呼び方をされており、同時に又その方の尊重をも重ね合わせられている。トイレ誘導時のプライバシー保護には特に心くばりをされている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の言動や行動の中での気づきを得て、声掛けを行うことで、本人様の希望や想いを引き出すようにしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日その日の状況に応じ、タイムスケジュールにとらわれず、本人様のペースに合わせるように務めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>毎朝ホットタオルで顔をきれいにし、男性は髭を剃って頂いています。女性は外出時には、メイクをされる方もおられます。入浴時等で着替えを選ぶときは、ご本人と一緒に選んで頂く事もあります。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その日の体調や嗜好に合わせて、個別でメニューを変えたり、形状を変えたりしている。コロナの影響で、向かい合わせで食事を摂る事が出来なくなり、職員も一緒に食事を摂る事が出来なくなっているが、片付け等は手伝ってもらっている。</p>	<p>現在はコロナ渦の為に座席は斜めに取っているし、職員も食事は別であるが、献立は月に何度かは、昔よく見られたシンプルなカレーや焼きそばを出したりして喜んでもらっている。テレビはつけた方が明るくて楽しい為につけたままにされている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分摂取量を記録し、少ない場合は嗜好品を提供するなどをし、摂取量の確保に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>1日3回の食後の口腔ケアを実施し、週1回の訪問歯科衛生士による、口腔内のチェックを行っている。また、毎月歯科衛生士による指導も受けており、口腔内の清潔保持、口腔疾患の早期発見に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>オムツの使用を減らし、日中はリハビリパンツを使用して、定期的にトイレ誘導を行っている。リハビリパンツにすることで、オムツかぶれは無くなったが、排泄の自立までは難しい。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握されてトイレ誘導されてはいるが自立で排泄には繋がらない面も見られる。当面の支援としてはオムツからリハビリパンツに変えたりして、少しでも自立排泄し易いように努力はされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便状況を管理し、積極的な水分摂取や、歩行などの軽い運動を取り入れることで、排便を促すようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の曜日は決めておらず、本人様の体調や気分により入浴を行っている。週2回の入浴以外にも必要に応じ、手浴や足浴を行っている。</p>	<p>週に2回は入浴されている。湯は毎回入れ替えされている。入浴を拒まれた場合は、日時を変えるようにしている。入浴中は温かい湯に浸かっている事もありリラックスしている所為で職員とふたりでよくコミュニケーションを楽しまれている。</p>	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調の変化に合わせ、臥床のタイミングを変えている。季節により加湿器や湯たんぽなどの使用を行い、安眠できる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をしっかりと読み込み、薬について把握するよう努めている。体調に変化があった場合は、主治医とも相談するように勤めており、内容については全職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族からの聞き取りにより、本人様が得意とする事がらは、入所されてからも続けて頂くようにしている。また、外出等で気分転換を図ってもらえるよう支援している。現在はコロナ禍の為、外出は出来ていない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	珈琲が好きな方は、喫茶店にお連れしたり、自然が好きな方は公園を散歩したり、旅行が好きな方は旅行に行ったりもしていたが、現在はコロナの影響で、籠りきりとなっている。	外出支援には極めて積極的な面が見られるがコロナ禍では実施できないのが現状である。従来では近くのライフ店や神社も含めて近場はよく行かれていた。家族の協力のもとで北海道や九州に旅行に行かれた事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた時は、好きな物を自身で選んでもらうようにしている。時にはご本人に支払いをしてもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	コロナ禍で面会禁止の為、家族とは電話でのやり取りを行って頂いている。また、年賀状や暑中見舞いのはがきを投函する事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理や季節感のある飾り等、生活感や季節感を味わえ、くつろげる場所に努めている。建物が5階にある為、景色もきれいで、どの部屋も窓が大きく明るい。	リビングは5階のコーナーにある事から遠望が二面にわたって広がっており開放的である。特に海に面した側では臨海工場地帯の綺麗な夜景が見えており、地元の観光スポットにもなっている。共用空間でもあるリビングの壁にはちぎり絵であしらった季節ものの作品が飾られて情緒豊かな雰囲気が演出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍で、ソーシャルディスタンスを保っている為、利用者様同士のふれあいは難しいのが現状である。席の配置については、一人が好きな方は、一人の空間を保ちやすい席にいただき、気の合う方を近くの席にして頂いたり、気を使わないような居場所作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の協力のもと、思い出のある家具や写真などを持ち込んでもらっている。	居室は家族と相談されてお気に入りの家具や衣類などが持ち込まれ自分らしさを味わわれている。掃除は職員が実施しておりモップ掛けも行われている。シーツ交換は毎週であるが必要が生じた場合は、その都度交換されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内で一人でも行動が出来るよう、ベッドやタンスの配置等も工夫している。時間が直ぐにわかるよう、枕元に時計を置いておられる利用者様もおられる。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない